

漢詩数首 : 文苑

著者	笠間, 梧園, ?本, 植, 隈本, 繁吉, 秋月, 胤繼, 愛日居主人
雑誌名	龍南會雜誌
巻	33
ページ	39-40
発行年	1895-01-30
URL	http://hdl.handle.net/2298/4522

と翻へる所々を見てもゆかは、はた、いかある思をか詠すらむ、この度の一軍は、いつこよ向ふ戦略にか、しらるへきにはあらされども、早晚攻入るへき所は、奉天、威海衛、一つ二つの中あるへし、我ら輩のをめきさげびて、四百餘州のしこ草を、太刀の刃風にきりまくり、何れもあつばれ功名を、海外にかゝりやかま、凱旋の日、再一堂の上、うちつとひ、大白を浮へて無事を祝し、ふりし月日の物語に、馬上の風流をきくあらはるの時の快やいろ、あらむ、たもへは、ひたすらゆふたすき、朝夕かけてその平安を神に祈らんのみこころ、

乙未元日

教授 笠間 梧園

爐邊相對憶王師。夜雨凄々欲雪時。恨我無由從此役。空剪寒燭鬪新詩。

乾坤無物不休明。鳳凰樓臺瑞靄橫。賓日又賓新賀客。送年併送遠征兵。已休渤海灣頭

乙未元旦書感

戰將結燕京城下盟。今歲東洋應復舊。必看

主人酌酒好情長。不覺斯身客異鄉。只想翠華駐邊地。滿城春色熱中腸。

天地自清平。

十二月十五日曉起憶遠征

助教 黑本 植

乙未元旦口號

隈本 繁吉

萬里征人何日歸。連旬料識凍戎衣。寒風昨夜入南國。天曙已看白雪飛。

轉騎軍曹來訪。席上賦似。

神后威武屬舊夢。猿郎出旅元迂謀。陣後綠江凍雲外。馬前燕京落葉秋。分黨李中消如沫。爭羈秦楚始知羞。國光照來寰宇裡。甲午迎乙未春流。

聞征清軍捷報有此作 次平戶井上先生所寄孫韻

秋月 胤繼

海洋嶋戰信空前。敵艦沈摧已失權。西北二
門望風潰。天兵一舉動全燕。西門為旅順口、北門為九連城、海洋嶋之激戰、我軍大勝、二門相次陷落、故及。

梧園先生曰全國陷落蓋非遠

又

王師所向已無前。清國存亡在我權。彼若頑
然猶更抗。壓摧禹域况幽燕。

又曰全篇美玉無瑕

歲晚懷遠征

一自征清出六師。一瞬忽忽日月馳。兵馬倥
偬年云暮。長嘯按劍騁遙思。聞說北地寒威劇。
朔風吹雪肌膚劈。可知從軍將士艱。家人相
依憶遠役。誰識神州壯男兒。鉄心石腸。颯爽
姿。一身殉國輕於絲。馬革包屍固所期。醜虜
畢竟鼠輩耳。天兵一降悉披靡。聖明天子錄
戰勳。日夜肝食勞將士。嗚呼國民由來浴至

仁努力奉公在此辰。陽雪轉戰苦則苦。身後
應列元功臣。

除夜

寂寂幽齋靜似禪。流光一瞥箭離弦。梵鐘百
八聲將盡。獨對殘燈猶未眠。

梧園先生曰平穩而帶悲韻

又

光陰如矢歲華遷。心緒紛紛轉悄然。孤客不
眠夜。將盡殘燈影裏送殘年。

雪夜憶遠征

愛日居主人

朔風吹斷凍雲籠。夜雪霏々一望中。想見外
邦征戰士。苦寒益烈氣增雄。

送某君之清

蹶起慨然企遠征。勇心勃々騁燕京。喜君載
筆從軍旅。他日應期班馬名。

寄海祝

助教授 黑本植

波をさへこまもろこしの荒儀に